

仙台YMCA

みつかる。つながる。よくなっていく。

No.375.2026



2026年1月20日発行

公益財団法人仙台 YMCA
〒980-0822
仙台市青葉区立町 9-7
Tel 022-222-7533
Fax 022-222-2952
www.sendai-ymca.org
発行人 / 加藤雄一
編集人 / 松島晃子

仙台青年

SENDAI YMCA NEWS

1-2



2月25日（水）は「ピンクシャツデー」です。

※ピンクシャツデーとは…

2007年カナダでピンクのシャツを着て登校した少年がいじめられました。それを見た2人の友人が50枚のピンクシャツを友人・知人に配り、賛同した多くの生徒がピンクのシャツを着て登校し、いじめが自然となくなっていました。このエピソードが世界中に広まり、出来事があった2月の第4水曜日に皆でピンクのシャツを着ていじめについて考える日として広まりました。日本のYMCAでもこの取り組みを大切に、それぞれの地域や現場に合った形で活動을続けていき、今年で11年目になります。

2026年のピンクシャツデーのメッセージは、『ーだいじだよ わたしのきもち ぼくのきもちー』

シンプルで、でもとても大切なことばです。

（第2面へつづく）

仙台YMCAの使命

私たち仙台YMCAは、イエス・キリストによって示された愛と奉仕の生き方に学びつつ、青少年の全人的成長を願い、このわがを東北の地に広げるための活動を行います。

共に生きる社会をめざします。

私たちは、すべての人が喜びと痛みを分かち合う、豊かな愛と希望に満ちた社会の実現に努めます。

喜びのある生き方をすすめます。

私たちは、すべての人が、生涯にわたる学びと交わりをとおし、共に成長できる生き方をすすめます。

世界平和の実現に努めます。

私たちは、歴史をふりかえり、一人ひとりの人権とすべてのいのちが尊ばれる世界の実現に努めます。

地球環境を大切にします。

私たちは、地球環境を守り、自然と人との共存をめざします。

ボランティアの働きを地域社会に拡げます。

私たちは、人と人とのかかわりを豊かに育み、隣人に仕えあう喜びの輪を拡げます。

子どもたちの生きる力を育てます。

私たちは、子どもたち一人ひとりの個性を尊重し、子どもたちが自発性に富み、自立心豊かでたくましい人間に育つよう支援します。

日々の生活の中で、私たちは「我慢すること」や「空気を読むこと」を優先してしまうことがあります。特に子どもたちは、マイナスの感情をうまく言語化できなかったり、自分の気持ちをことばにする前に飲み込んでしまったりすることがあります。でも、本当はどんな気持ちも否定されるものではありません。嬉しい、楽しいだけでなく、悲しい、悔しい、怖い、嫌だという気持ちも、すべて大切な心の声です。

宮城県内では毎年、不登校の児童生徒数が増えていることが報道されています。その背景は一人ひとり異なりますが、「自分の気持ちをうまく出せなかった」「わかってもらえなかった」という思いを抱えているケースも少なくありません。ピンクシャツデーは、そうした声に耳を傾けるきっかけの日でもあります。

仙台 YMCAでは今年も、こども園、ファミリーセンター、ジュニアクラブ、専門学校、本部事務局など、さまざまな現場で様々な年代の気持ちに寄り添いながらピンクシャツデーに向けた取り組みを行います。対象となる年齢や立場は違っても、「一人ひとりの気持ちを大切にすること」という思いは共通しています。

また、SNSなどを活用して活動の様子や思いを広く発信していきます。思いを共有して、賛同の証としてピンクの服を着ることでこの活動を盛り上げていきますが、「ピンクのシャツを着て写真を撮ること」それ自体が目的ではありません。その先にある「気持ちを大事にしたいんだ」「伝えていいんだ」というメッセージが、誰かの心に届いてくれたら、とても嬉しいです。

2月25日(水)、そしてそれまでの日々の中で、あなたの気持ちも、あなたのそばにいる人の気持ちも、どうか大切にしてみてください。気持ちを大切にすると、ということ…？一人ひとりがそんなふうに思いを馳せることで、きっと世界はほんの少しずつでもよくなっていくと私たちは信じています。ピンクシャツデーが、その一歩を踏み出す日でありますように。

(2026ピンクシャツデー担当職員：伊藤 朋子)



Column

仙台青葉城ワイズメンズクラブ

『仙台青葉城ワイズメンズクラブ活動報告』 ―ネパール人留学生への備蓄米配布―

仙台青葉城ワイズメンズクラブ 涌澤 博

コメの値段がかなり高くなり備蓄米放出云々がニュースになっていた頃の昨年の9月末頃。青葉城ワイズメンズクラブのメンバーで仙台富沢教会の阿部頌栄牧師より、フードバンクを運営している塩釜のNPO法人「いのちのパン」様からネパール人留学生に対する備蓄米配布支援の手伝い応援依頼が青葉城クラブメンバー宛に届きました。内容は10月14日に塩釜の倉庫から仙台市内にあるクラブ会員でハリさんのお店(ネパール食料雑貨店)にコメ4,200kgを運搬して欲しいとの依頼でした。

私たちのクラブ会員には、ネパール人のハリさんも在籍しておりますが、彼も「いのちのパン」との繋がりがあり運搬活動には多くの留学生やハリさんの会社の社員などを動員していただきました。30kgの精米140袋、合計4,200kgのコメをメンバーの井上さん、南澤さん、涌澤のトラックとNPO「いのちのパン」様のトラックを拝借し、一度でネパール雑貨店に運ぶことができました。30kgのコメ140袋をどのように捌くのか？初めは疑問に思っていましたが、ネパール人協会の理事なども歴任しているハリさんの顔は広くSNSで次の日には一気に捌き切りました。今回の備蓄米配布において、NPO法人いのちのパン様には心より感謝申し上げます。これからも留学生支援活動のお手伝いができればと思います。

○ 青葉城クラブ 阿部頌栄さんより

「私は今回つくづくワイズメンズクラブのすばらしさを実感いたしました。本当にありがとうございます。これからも青葉城ワイズとつながり、ワイズスピリットを受け継いで行ければと思います。」

○ 青葉城クラブ シュレスタ・ハリ・ゴパルさんより

「いのちのパンとワイズメンズクラブ協力のもと、4.2トンのお米をネパール人留学生に配布された事をお知らせ致します。逆境にある学生にご支援をいただいた、いのちのパン様、ワイズメンズクラブには心より感謝申し上げます。私は日本でこのような支援プログラムのコーディネートに携われた事に感謝しております。今後とも支援活動に努力していきます。」



『石巻広域ワイズメンズクラブ活動報告』

石巻広域ワイズメンズクラブ 川上直哉

今から約180年前に始まった「YMCA」の運動は、ロンドンから世界各地に広がりました。それは「青少年の健全な育成」を目指す、若者たちのキリスト教奉仕活動でした。

そして、学生生活を終えて社会人となった方々が、YMCA運動を支えるクラブを作り始めました。始まりは、米国オハイオのトレド市、1922年のことでした。「ワイズメンズクラブ国際協会」と名付けられたこの運動体は、今、様々な宗教・無宗教の方々と共に、76か国・1,504クラブ・25,076名で、活動を継続しています。その「国際協会」の中に「アジア太平洋地域」があります。韓国とインドを除くアジア太平洋地域をカバーしています。その中で日本の存在感は大きく、国内に134クラブ・2,081名が活動しています。そして両区の更なる発展とYMCAと国際協会への支援強化のために日本区は1997年に「東日本区」と「西日本区」に分割されました。今は、おおよそ、毎年6月の第一土・日曜日に「東日本区大会」、第二土・日曜日に「西日本区大会」が行われています。

2011年の東日本大震災を受け、仙台をはじめとする世界中のYMCAと共に、全国のワイズメンズクラブも現場で奉仕活動に勤しみしました。その活動を引き継ぐために、2016年5月28日「石巻広域ワイズメンズクラブ」が誕生しました。



東日本大震災で、石巻は3千人以上の犠牲者を出しました。私たち石巻に住む人は、みな、その犠牲の上に今日の生活を組み立てている。それは、重たいことですが、忘れてしまうわけにはいかないことだと思っています。

キリスト教会の中心は「ミサ・聖餐」です。それは「ペサハ＝過ぎ越し」と呼ばれる、太古の「新年のお祭り」に由来します。そのお祭りは、「今ある日常は、巨大な犠牲の上に成り立っている」ということを思い出すために行われるものでした。

重苦しくても、大切なことがある。そのことを思い出し、そこから未来を望見する。そんな志を立てて、今年の6月に、石巻で「ワイズメンズクラブ国際協会第29回東日本区大会」を開催します。石巻広域クラブは、仙台等の他クラブの協力を得て、そのホスト委員会を編成しています。瓦礫の中から立ち上がった今の感謝を噛みしめつつ、「慶長遣欧使節」の史実を活用して未来へ踏み出す…という企画を準備しています。一般公開の催事といたします。ぜひ、お覚えくだされば幸いです。

YMCA と私

富沢児童館

富沢小学校6年生 武藤日向子さん

YMCAとの出会いは、私が2歳の頃でした。一緒に遊ぶ友だちをつくろうと、母が私を富沢児童館に連れていってくれたことがきっかけです。当時のことはあまり覚えていませんが、母に写真を見せてもらおうと「すくっこ」という未就園児の活動に参加し、工作や運動遊び、季節の行事、クッキングなど様々な経験をさせてもらっていたことが分かりました。

幼稚園に入園すると、児童館へ行く機会は少なくなりましたが、小学校に入学すると、今度は児童クラブを利用するようになりました。私が小学校に入学した年は、コロナ禍で長い休校が続きました。4月の入学式が6月に延期になり、それまでのたくさんの時間を児童館で過ごすことになりました。私が富沢児童館で過ごした中で心に残っていることは、高学年ボランティア「トミザワイレブン」の活動です。YMCAバザーのお手伝いやキャンプ、戦争や災害で困っている人のための募金活動、荒川清掃、地球探検隊などたくさんの活動に参加しました。キャンプでは、役割を決め、児童館の子どもたちのためにおもちゃをつくったり、みんなで協力して食事をつくったりして楽しい思い出がたくさんできました。募金活動は、寒い中とても大変だと感じましたが、たくさんのお金が集まり、私一人だけの力では何もできないけれど、みんなが力を合わせれば困っている人の役に立てること、困っている人のことを思い、自分にできることを考えて行動することの大切さを学びました。YMCAは、私にとってたくさんの経験をさせてくれるかけがえのない場所です。ここで学んだ思いやり、誠実さ、責任感、尊敬心を大切に中学校生活も充実させていきたいです。

最後になりましたが、2歳の頃から小学校卒業までの10年という間、私の良いところを見つけ、優しく温かく見守ってくださったリーダーのみなさんにとても感謝しています。ありがとうございました。



維持会費（12月16日～1月15日）
皆様のお支えに、心より感謝申し上げます
◆一般会員
維持会員A 横倉 純

※敬称略



絵：伊勢文夫さん

一般会員・サポート会員を
随時募集中です
ぜひ会員として、
仙台YMCAの活動をお支えください
お問い合わせ：本部事務局
TEL:022-222-7533
FAX:022-222-2952

新年おめでとうございます。日頃より仙台YMCAの働きを覚え、お支えくださっている皆さまに、心より感謝申し上げます。日々のプログラムに参加してくださる方、見守り、応援してくださる地域の皆さま、いつも励まし、支えてくださるボランティアの皆さま、そして毎日のプログラムを支える職員の皆さま、そのお一人おひとりが、仙台YMCAが受けている賜物です。いつもありがとうございます。

2026年は、東日本大震災から15年を迎える年です。震災は、あの時からずっと継続しているものであり、決して過去ではありません。私たちは変化しながら、今を生きる人々のために、私たちには何ができるか、を考えながら行動へとつなげていきたいと願っています。震災は、多くのつながりを生みましたが、その中で、日常で孤立や不安を抱える方々の姿は、むしろ見えにくくなっているのかもしれない。だからこそ、今年も仙台YMCAは、弱く、小さくされている人に寄り添い続けます。

今年も仙台YMCAは、「こども」「コミュニティ」「ボランティア」に焦点を置いて活動を展開しています。子どもたちには、学びや体験だけでなく、自分らしさが「みつかる」心がほっとできる関係を。コミュニティには、支援する・されるで分けない、互いが支え手として「つながる」場を。そしてボランティアの働きによって、地域社会が「よくなっていく」ことを目指します。短い時間でも、初めてでも、できることから関われる入口を増やし、一緒に学びながら歩める場を広げていきます。

加藤 総理事の

『みつかる。つながる。
よくなっていく。』

連載

第25回

「新年のご挨拶」



そして、今年ぜひ力を注ぎたいのが「ユースの力を集める」ことです。ユースは参加する側であるだけでなく、地域を動かす大切な担い手です。ユースの声が企画になり、行動になり、誰かの希望につながる。その循環を、仙台YMCAの中でいっそう豊かにしていきたいと願っています。大きなことを一度に成し遂げる必要はありません。小さく始めて、続けて、仲間を増やしていく。その一步一步が、未来をつくれます。

今年も、皆さまと共に歩めることを嬉しく思います。子どもたちが安心して来られる場所を整え、地域の中で「ひとりにしない」を形にし、弱さが置き去りにされない社会を目指してまいります。その歩みを、ユースの声と力とも結びながら、小さな行動を確かな希望へとつないでいきたいと願っています。2026年が、皆さまにとって希望と平安の一年となりますように。本年もどうぞよろしくお願いいたします。

volunteer

西山児童館

小中学生ボランティア「ニシヤマセブン」は2017年度より活動を開始しました。現在25名の児童が在籍し、今年度も様々なボランティア活動に携わってくれました。改めて、ニシヤマセブンの紹介と今年度の活動を掻い摘んでお知らせします。

1. ニシヤマセブンの目的

- ①小学校高学年からのボランティアへの取り組みを促す活動を展開し、児童の社会性、協調性、生きる力を育む。
- ②中学生、高校生ボランティアへ視野を広げ長期的なボランティア育成を目標とする。

2. 対象

西山小学校4年生～6年生および西山中学校1年生～3年生

3. 活動内容

① キャラクターディベロップメントの日(ひ)

子どもたち自身が考え、地域をよりよくするためにどんな行動が必要でどのように実施するのかを職員と協議し、西山児童館で大切にしているキャラクターディベロップメント(思いやり、誠実さ、責任感、尊敬心)をテーマにおいた活動を実施していきます。児童館行事や運営団体YMCAの特別活動のサポートも行います。

② 地球(ちきゅう)探検隊(たんけんたい)ジュニアボランティア活動(かつどう)

児童館で行っている自然体験活動にジュニアボランティアとして参加することもできます。西山児童館では児童クラブに登録している小学1年生～5年生を参加対象とした「地球探検隊」を月に一回実施しています。地球探検隊ジュニアボランティア活動では、山登りや川遊び、野外クッキング等活動を楽しみながら、児童館のリーダーのお手伝いや下級生のお世話をしています。(西山児童館館長 伊藤雅宣)

<今年度もいろいろな活動に取り組みました！> (1月16日現在)

	キャラクターディベロップメントの日 セブン独自の活動	地球探検隊ジュニアボランティア活動
4月	セブン説明会と今年度計画	七北田公園で春探し
5月	YMCA バザーの計画	雨天中止
6月	YMCA バザーの準備と当日参加	千代大橋緑地で火おこし
7月	1年生お泊り会	雨天中止
8月	チャリティーラン	蕃山でやまのぼり
10月	町内会・児童館・市民センターまつり支援	松島でカニ釣り
11月	自転車の旅 閉上を目指して	七北田でたき火のおさらい
12月		松森河川敷で野外料理
1月	セブン感謝会 親子食育サポート	

今後も児童館・地域の担い手として育成活動を継続していきます。
ニシヤマセブンの活躍にご期待ください！

